

「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」

平成27年7月

新しい定時制高校創設プロジェクト

(目次)

I	はじめに	1
II	市立定時制高校の現状と課題	3
	(1) 生徒の状況	
	(2) 学校を取り巻く状況	
III	新設校の基本的な枠組み	
	(1) 求められる役割	5
	(2) 新たな教育ニーズへの対応	6
	(3) 学習保障に向けた少人数教育, きめ細かい指導のあり方	7
	(4) 時間帯のあり方	8
	(5) 修業年限や単位認定等のあり方	9
	(6) 外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方	10
IV	学校規模や教育施設のあり方	12
V	むすびに	13

(資料目次)

参考資料 1	… 「新しい定時制高校創設プロジェクト」設置要綱		
参考資料 2	… 同	有識者名簿	
参考資料 3	… 同	委員名簿	
参考資料 4	… 同	議論の経過	
参考資料 5	… 同	第 1 回有識者会議	会議概要
参考資料 6	… 同	第 2 回有識者会議	会議概要
参考資料 7	… 同	第 3 回有識者会議	会議概要
参考資料 8	… 京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針		
参考資料 9	… 西京定時制と伏見工業夜間定時制の比較		
参考資料 10	… 「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ(案)に対する市民意見募集の結果について		

I はじめに

洛陽工業高校と伏見工業高校の将来構想が議論される中、伏見工業高校夜間定時制においては、近年、働きながら学ぶことを目的とした生徒が減少し、不登校経験のある生徒や特別な支援を必要とする生徒をはじめ、多様な生徒が入学している状況について、どう対応していくべきかについて検討がなされてきました。

同校の先生方が将来の学校のあり方について検討を進めた結果、平成25年11月、「本校夜間定時制は現在の場所で新しい学科を設置し、不登校・発達障害により集団生活に馴染めず全日制高校に行けない生徒が学び直し、社会的に自立していくための夜間定時制高校」の創設を求める要望書がまとめられ、京都市教育委員会に提出されました。

全国的に全日制高校への進学者が増加する中で、夜間定時制高校は勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験や特別な支援が必要な生徒をはじめ、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒たちが増加してきています。

伏見工業高校と西京高校に設置されている夜間定時制高校においても、こうした状況は同様であり、少人数教育の徹底はもとより、通常の4年ではなく全日制と同様に3年間で卒業を可能とした3年制の導入、特別支援に関する専門的知識を有する教員の配置、文部科学省の「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」に関する調査研究など様々な改革に取り組んできました。

こうした下、教育委員会では、伏見工業高校夜間定時制からの要望や定時制高校の現状・課題を踏まえ、市立定時制単独高校（以下「新設校」という。）の創設に向けた検討を進めていくこととした基本方針を平成26年7月31日に決定し、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の管理職や教職員と教育委員会職員で構成するプロジェクトを平成26年10月に設置するとともに、学識経験者や中学校現場等の参画も得ながら、次の3つの観点に沿って議論を重ねてきました。

- (1)不登校経験や、発達障害等の特別な支援を必要とする、又はその可能性のある生徒の学力保障と進路保障に向けた指導の在り方
- (2) 将来を見据えた生活習慣の確立、資格取得の在り方、進路指導やキャリア教育の充実に向けた外部の専門機関との連携の在り方
- (3)上記2点を円滑に実施するための教育課程、単位取得、授業時間帯、修業年限、人員配置や学校体制の在り方

また、広く市民の皆様の御意見をいただくため、平成27年3月23日から約1ヶ月間、市民意見募集を実施しました。その主な御意見に対する本市の考え方につきましては「参考資料10」に掲載させていただいております。

お寄せいただいた多数の御意見からは新設校に対する期待の大きさが伝わるとともに、その内容は本プロジェクトで積み重ねてきた議論と軌を一にしており、改めて新設校の目指す方向性についての確信を深めております。

生徒・保護者をはじめとする市民の皆様の御期待に応えるため、今後とも、本プロジェクトにおける議論及び市民の皆様からお寄せいただいた御意見を集約したこの「まとめ」を基に、新設校のあり方の更なる具体化を図ってまいります。

Ⅱ 市立定時制高校の現状と課題

(1) 生徒の状況

現在、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制においては、働きながら学ぶことを目的とした生徒だけでなく、不登校経験のある生徒や特別な支援を必要とする生徒をはじめ、多様な生徒が在籍している状況です。

とりわけ、別表（4ページ）のとおり、中学校時代に不登校経験のある生徒は入学者のおよそ5～6割に達するとともに、発達障害等による特別な支援を必要とする生徒も在籍者の1～2割程度を占めるなど、様々な背景や困りを持つ生徒が多く学んでいます。

こうした中、両校では少人数教育の徹底による生徒たちへの学習保障に取り組むとともに、特別支援に関する専門的知識を有する専門家の配置、また、文部科学省の「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」の調査研究に取り組むなど、生徒たちのニーズに応える改革を進めています。

また、両校には正社員として就労する生徒はほぼ就学していない状況にありますが、経済的理由はもとより、生活習慣の確立を図る意味で学校の指導の下、およそ7～8割程度の生徒がアルバイトを行っている実態があります。

生徒たちの卒業後の進路状況については、伏見工業高校夜間定時制ではほぼ全員が就職しており、西京高校夜間定時制でおよそ4割の生徒が進学、1割の生徒が就職し、残りの生徒については進学準備や就職につなげていくためのアルバイトを継続しています。

このように、多様化する生徒たちのニーズにこれまで以上にきめ細かく応えていくことが求められており、しっかりとした学習保障を軸とする「学び直し」や生徒たちの自立支援等の機能を充実させた教育内容及びそのための学校体制について更なる検討が必要です。

(2) 学校を取り巻く状況

別表（4ページ）のとおり、伏見工業高校夜間定時制については工業の専門学科である単位制の「工業技術科」、西京高校夜間定時制については学年制の「普通科」を設置し、1学年あたりそれぞれ30名と50名を募集しており、ほぼ募集定員を充足している状況ですが欠員が生じている年度もあります。なお、西京高校夜間定時制では、平成25年度入学者選抜から5名程度の長期欠席者特別選抜の導入、また3年間で卒業できる3年制を原則とするなどの改革に取り組んでいます。

両校とも、前述のとおり多様な学びの動機を持つ生徒たちに少人数教育によるきめ細かい指導を行うとともに、伏見工業高校夜間定時制は土木・建築・電気・機械などの工業系、西京高校夜間定時制は情報・商業系の資格取得も促進しています。

また施設状況については、伏見工業高校夜間定時制、西京高校夜間定時制ともに全日制課程に併設される形態となっています。

西京高校夜間定時制については、運動場や体育館などは全日制との共有施設であるものの同敷地内に専用校舎を有しています。また、伏見工業高校夜間定時制については、校舎を含む施設全体を全日制と共有していますが、洛陽・伏見工業高校の再編・統合に伴い、平成 29 年 4 月以降は全日制課程が京都工学院高校へ移転するため、施設設備について定時制のみでの使用が可能となる状況です。

両校には少人数教育を必要とする生徒が多数在籍する状況に応じた教職員が配置されていますが、他の市立高校以上に教職員の平均年齢は高く、今後は若手教員をはじめ、幅広い年齢層の教員を配置するとともに、総合育成支援教育の充実に向け、総合支援学校と人事交流を行うなど「熱意と意欲を持った教職員」を配置し、学校組織の更なる活性化を図っていくことが必要だと考えられます。

(別表) 両校の比較

	伏見工業高校	西京高校
学科	工業技術科（単位制）	普通科（学年制）
募集定員	30 名	50 名 （うち、長期欠席者選抜 5 名）
修業年限	4 年制	3 年制 ※4 年制への変更も可能
資格取得	土木・建築・電気・機械系	情報・商業系
特別支援を要する生徒の在籍率 （平成 26 年 9 月現在）	17.8%	11.3%
新入生の不登校経験率 （平成 26 年度）	55.2%	60.0%
生徒の就業状況 （平成 25 年 9 月現在）	アルバイト・パート 約 8 割	アルバイト・パート 約 7 割
生徒の進路状況 （平成 26 年 3 月）	ほぼ就職 100%	大学進学 10%，専門学校等進学 27%，就職 7%，アルバイトの継続 46%，その他 10%

Ⅲ 新設校の基本的な枠組み

(1) 求められる役割

本プロジェクトにおいては、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の現状と課題について改めて共通認識を深めると同時に、両校に通う生徒たちの実情やニーズについて検討し、新設校はどのような役割を担うべきかについての議論を深めてきました。

新設校では、まず従来の両校が保障してきたように、不登校等により中学校で十分な学力を身に付けることができていない生徒たち、発達障害等により特別な支援の必要な生徒たち、また経済的な理由で働きながら学ぶ道を選択した生徒たち、全日制高校等で居場所を見つけられずに中退し「学び直し」を求める生徒たちのニーズに応えていくことが必要です。

具体的に言えば、学力に少し自信がなく、勉強は苦手だけど学校に居場所を求める生徒たち、不登校を経験したり、発達障害等により特別な支援を必要とするなど、もう一度生活リズムを整えながら学び直したいと思う生徒たち、大きな集団の中では難しいが、少し小さな集団の中であれば学校生活を送ることができる生徒たち、さらには家庭の経済状況などの理由でアルバイトなどをしながら勉強をしたい生徒たちに対して学習の場をしっかりと保障しながら、社会的な自立への基礎を築いていくことが重要となってきます。

新設校にはこうした多様な生徒たちの「学びたい」という意欲や気持ちを大切に、その思いに対してしっかりと学習と生活支援を行っていく役割が強く求められるため、生徒たちに「勉強がわかる」という喜びを感じさせ、保護者との連携の下、進路展望を描かせていくことが重要となってきます。

そのためにも、生徒たち一人ひとりに応じたきめ細かい指導や支援を行いながら、基礎学力の定着・向上とともに、ソーシャルスキル（社会性）やコミュニケーション力（人間関係形成力や協働力など）を育むことを通して、生徒たちを社会に送り出すことができる柔軟な教育システムの構築を目指していかなければなりません。

なお、新設校のあり方に関しては、生徒や保護者の進路希望、そして中学校の進路指導の実情を考慮した場合、総合支援学校やその職業学科との相違を明確にしておくことも必要です。

【その他の意見】

- 新設校についても引き続き生徒たちの「学習の場」であるという大前提を伝えるべき。
- 「しっかりと勉強に取り組める学校」というメッセージを強く発信するなど、学校ビジョンを広く理解してもらうことが大切である。
- 様々な理由による「学び直し」を求める生徒への確かな学習保障を重視したい。

- 新設校の生徒像を明確にしつつも、両校に通学している現在の生徒たちは基本的に受け入れたいという思いである。
- 新設校においても多様な生徒がいることが生徒たちの社会性や成長に大いに役立つ。
- 「課題のある生徒を受け入れてくれる公立高校へまず進学させよう」という意識ではなく、「その生徒が進学先の個々の高校でいかに育つか」という観点も大切にした進路指導を中学校の先生方をお願いしていかなければならない。
- 「授業に出なくても学校に来ていれば卒業できる」という中学校時代の認識を早期に改善する取組をしっかりと継続しないといけない。

※有識者会議の意見は「参考資料5・6・7」に掲載（以下、同様）

（2）新たな教育ニーズへの対応

近年の定時制高校は、様々な理由からきめ細かい教育を必要とする生徒の教育保障を担ってきましたが、新設校においては、中学校を卒業し高校進学を望みながらも、実際には通学が困難であったり、また家から出ることができない、いわゆる「引きこもり傾向」にある生徒たちへの教育保障のあり方も研究する必要があると考えています。

こうした「引きこもり傾向」にある生徒については、中学校卒業段階での早期改善に向けた取組が有効と言われる中、全国的に公立高校としてこうしたニーズへの対応が十分にできているとは言えない状況にあります。

京都市立中学校では、京都市教育相談総合センター（以下「こどもパトナ」という。）を核に、担当教員が学校のパソコンからインターネットを通じてオンライン学習を展開し、学校に行きたくても行けない生徒たちへ学習支援を行う「は一とあくせす事業」を展開しています。この事業により、生徒たちは学習に対する意欲の継続・向上を図るとともに、学校とのつながりを感じることができ、不登校の状況を改善する一助となっています。

こうした状況の下、従来の公立高校にはない、ICT環境を活用した学習支援なども視野に入れた新しいタイプの通信制の併設など、通学意欲がありながらも高校に登校できない生徒たちへの学習保障のあり方について、今後、その実施方法や対象とする通学圏なども含めた検討を進めていきます。

また同時に、中学校現場からは、本市が全国に先駆けて設置し、不登校を経験した中学生を対象とする洛風中学校や洛友中学校で学ぶ生徒たちの進路保障に向け、新設校との連携・接続のあり方もこの機会に検討すべきではないかとの要望もいただいていると伺います。

もとより、こうした生徒のニーズや学校現場の要望に応じていくためには、生徒本人の意志をしっかりと把握するとともに、保護者の理解・協力が不可欠であるほか、市立中学校と新設校の間における生徒たちの実態の相互理解、進路希望の的確なマッチングが必要であることは言うまでもありません。

そのためには、生徒本人の進路に対する意欲を高めるための教育相談・進路相談を中学校と新設校間で複数回実施するようなシステムなど、従来の公立高校入学者選抜の制度の枠を越える多様な視点や多面的な尺度を持った新しい選考方法を検討していくことが求められており、個別相談や見学・体験などを複数回実施されている総合支援学校職業学科の「オープンキャンパス」の実績や、中学校現場の意見を踏まえた検討を行うとともに、中学校現場への早期の情報提供と関係機関との調整も同時に進めていくことが必要となります。

【その他の意見】

- 新設校の検討を機に、中学校を卒業したものの様々な事情で進学や就職ができていない「無業状態にある生徒たち」のサポートのあり方も検討してはどうか。
- 新たに開校する清明高校など府立高校定時制が求める中学生像と新設校のそれはどう関連するのかという視点も大切である。公立高校間で役割分担を明確にしていくことも一つの考えである。

(3) 学習保障に向けた少人数教育、きめ細かい指導のあり方

前述のとおり、新設校においては、生徒たちに「勉強がわかる」という喜びを感じさせ、進路展望を切り拓かせるために全日制高校とは大きく異なる環境づくりが求められます。

とりわけ、空間的にゆとりのある教室や施設設備が準備されていることが大切であり、そうした環境の下で落ちついて授業を受けることができる少人数講座は、不登校を経験した生徒や発達障害等の生徒にとって大変有効であることはこれまでの取組実績からも明らかです。

例えば、現在の伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の実情では、基礎学力の定着が不十分なまま入学する生徒が多く、15～20名程度の少人数の講座が理想的であり、数学・英語など学力差が大きな科目や実習系科目については1講座10名以下で展開することが必要となっている場面があることも考慮し、新設校の指導体制を検討する必要があります。

ただし、学習保障という面では習熟度等による分割講座も大切ですが、生徒たちが社会生活を円滑に送れるよう、集団規模を適宜見直していくことが重要であることも意識しておかなければなりません。

さらに新設校においては、伏見工業高校夜間定時制が文部科学省から指定を受けている「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」の下で研究している、生徒一人ひとりと向き合うことのできる具体的な支援のあり方を教職員が共有する「個別の指導計画」をすべての生徒に積極的に活用していくことが重要です。

さらに、発達障害等により特別な支援を必要とする生徒たちに対しては、それぞれに異なる障害の特性や程度を把握したうえで、自己肯定感や自信を持たせ、自立を促すよう働きかけることが大切です。そのためにも、個々の生徒の実態に応じた丁寧かつ柔軟な指導方法を教員間で共有するだけでなく継承していくとともに、伏見工業高校夜間定時制に配置している総合育成支援教育の専門家など、総合育成支援教育に関するアドバイザーやスクールカウンセラーといった専門職員の配置をより充実させることが重要です。また、教員一人ひとりが自己研鑽に励むとともに、他校種との人事交流も含め、「熱意ある人材」を配置し、専門職員との連携を図りながら、一人ひとりの生徒たちに寄り添う指導体制づくりについても検討する必要があります。

【その他の意見】

○特別支援に関する研修会を両校で合同開催することも検討していくべきである。

(4) 時間帯のあり方

現在、勤労青年が働きながら夜間に授業を受けるという従来の夜間定時制の実態は大きく異なってきております。

また、平成27年4月には、「京都府立清明高校」が午前・午後の昼間2部制単位制普通科校として開校しましたが、120名の定員を大きく上回る志願があり、本来的には昼間に学びたいという生徒たちのニーズが極めて高いことは明らかです。

一方、経済的な理由や心理面の不安など様々な事情から夜間にしか通学できない生徒がいるということは事実であり、実際に夜間定時制にはそうした生徒たちがアルバイトと両立しながら努力して通学・卒業し進路実現を果たしています。

新設校が、これまで定時制において受け入れてきた生徒たちの教育保障をしっかりと行いつつ、多様なニーズにも対応していくと考えると、夜間に学びたいというニーズに応えることも必要と考えられます。

具体的には、新設校においても引き続き、昼間のアルバイトを通じて生徒たちのキャリア意識の向上と生活習慣の確立を図るとともに、達成感や自己有用感をしっかり持たせ、新設校で夜間に学習保障を行うシステムも維持する必要があります。

こうした考えの下、昼間や夜間に学ぶ生徒たちの定員規模や実際の授業時間帯については、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制と教育委員会で具体的な検討を継続することとし、可能な限り教職員組織が一体となった学校運営を行える体制を構築できることを念頭に置きつつ、今後、具体化していきます。

【その他の意見】

- 生徒のキャリア意識向上や生活習慣の確立のために有効であるアルバイトの時間は午前中が望ましいと考えられる。
- 教職員が変則的な勤務態様となった場合は校内の連携が図りにくいという課題がある。

(5) 修業年限や単位認定等のあり方

西京高校夜間定時制の取組を踏まえた場合、生徒たちが全日制高校に進学した同級生を意識したり、努力すれば早く卒業できるという意味で学習意欲を高めることができるという観点から、従来の夜間定時制の授業開始時間を前倒しして多くの授業を受けることができるようにし、3年間で卒業必要単位を取得できる3年制はメリットが多いと考えられます。

同校では近年、3年間で卒業を基本とする方針を打ち出して改革に取り組むことで、中学生や保護者、中学校現場からも「午後から始まる学校」として広く認識され、高いニーズがある状況にあります。

こうした現状を踏まえると、新設校の昼間に学ぶ生徒たちは3年制を基本としつつ、ゆっくりとした学びを求める生徒たちは4年制を選択できるようにし、夜間に学ぶ生徒たちは4年制を基本に、希望があれば3年での卒業を可能とする形を採用していくことが望ましいと考えられます。

また、生徒たちがホームルームを意識したり、人間関係を構築して連帯感を持たせるなどの観点と、学びの期間を学年ごとに区切ることで進級に対する意識を高めることができる観点から、学年制が望ましいと考えられます。

ただし、生徒の実態に応じて3年制や4年制を併用することが想定され、多様なニーズに対応し、両者を円滑に運用していく場合には単位制を活用することが妥当なケースも考えられるため、今後、教育課程の具体化にあたって引き続き検討を行っていきます。

【その他の意見】

- 完全な単位制を採用するとホームルームの設置が難しくなり、友人づくりや人間関係の構築、通学モチベーションに良い影響を与えるとは考えにくい。
- 全国状況を見ても完全な単位制を採用している公立高校は、なかなか見当たらないのが実情である。
- 伏見工業高校夜間定時制のように単位制を採用するとしても、運用は限りなく学年制を意識したものとするのが現実的ではないか。

(6) 外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方

新設校に求められる役割を考慮すると、生徒たちが仲間たちと様々な思いや体験を共有し、他者と自分の違いに気付くとともに、自分の存在を認めてもらいながら他者をも理解していく場をつくることが大切であると考えられます。とりわけ、人と関わることが極端に少ないまま成長していく傾向にある「引きこもり傾向」の生徒に対しては、「人と関わることの重要性」を認識させることが重要です。

キャリア教育についてはこうした観点からも、生徒一人ひとりに自尊感情や社会的自立に必要な能力や態度を育て、自分の生活は自ら責任を持つことができるように全ての教育活動を通じて行うべきであり、新設校でもその考えは同様です。

さらに、必要とする支援の状況や学力差など生徒の実態が異なる中、生徒一人ひとりの伸び幅を最大限保障することを目指したきめ細かい進路指導を実現していくことが大切です。

まず資格取得については、普通科目とは異なる内容を学習することで生徒たちに興味・関心を持たせることができ、努力する姿勢を生んだり、自信を得る契機となるなど、大変有効と考えられます。また、資格取得に取り組めることが、生徒の学習意欲をさらに高めることになり、自らの進路のあり方を考える契機とすることができます。このため、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制がこれまで培ってきた、工業・商業・情報等の専門性の高い科目についても教育課程に取り込んでいくことが重要です。

次にアルバイトについては、規則正しい生活のリズムをつかんだり、また職場の先輩から社会の基本的ルールを学んだり、将来に備えて貯蓄を行うことができ、さらには自己の適性を発見することを通して正しい職業観や勤労観を形成し、卒業時の職業選択に役立てるといった観点も踏まえて両校は奨励してきました。

こうした両校の取組を踏まえた場合、新設校においても資格取得やアルバイトについては生徒たちのキャリア意識の向上のために重要な役割を果たしているとの認識の下、取組を継承していくとともに、企業や関係機関との連携の下、アルバイト先の紹介や社会との円滑な接続を図る様々な経験を積ませることも必要と考えます。

また、新設校においては、生徒たちが社会的自立を図ることができるよう、生徒たちの卒業後の支援体制も視野に入れて、情報はもとより実践を共有・融合する観点から、これまで以上に様々な関係機関と連携を強化し、力を合わせていくことも重要です。

例えば、生徒たちのキャリア意識を向上させるため、ハローワークや若者サポートステーションなど関係機関の協力を得るなどして、進路講話や社会保障制度などの働くための基礎知識、相談支援機関の役割についての理解を深める機会の充実などを図っていくことも大切と考えられます。

さらに進路実現に向けても、発達障害等で特別な支援を必要とする生徒については就労移行支援を行う機関等との連携を深めるとともに、様々な課題を抱える生徒についてキャリアコンサルタントなどの専門家の指導助言を得るなど、学校と外部専門機関がしっ

かり連携を深め、生徒たちのキャリア意識の向上を図るという視点を常に意識していくことが大切であると言えます。

【その他の意見】

- 工業や商業などの資格取得が生徒の学習モチベーションや進路意識の向上に果たす役割は大きい。
- 「ものづくり」を通じて、発想、企画、製造、完成と一連のプロセスを学ばせることは生徒たちが社会で働くときに大いに役立っている。
- アルバイト先でそのまま就職する生徒が半数を超えている実態があるが、キャリアアップの意識がないという消極的な意味での就職も含まれている場合もある。
- 学校の特長から商業や工業分野という話になるが、生徒たちの目線に立って、福祉・調理・看護など専門学校や外部講師を活用した資格取得も研究してはどうか。
- 広域通信制高校は技能連携校（専門学校）との連携の下、実際に多彩な資格取得ができるコースを設け、生徒たちに自信をつけさせるような取組も行われている。
- 神奈川県立高校ではアルバイトとインターンシップを融合し、賃金を得ながら勤労観を養い、アルバイト先での就職も視野に入れた「バイターン」制度を取り入れている例がある。
- 市立高校として、文化市民局や保健福祉局はもとより、こどもパトナ、サポートステーションなど京都市の関係機関との連携を大いに活用すべきである。
- 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒には、例えば就労移行支援の実績のある NPO との連携、またキャリアコンサルタントの活用なども検討すべきである。
- 生徒たちの補習教材についても、実績豊富な民間企業が提供しているものも活用していくことで学習保障に役立つ。
- 校内に担当教員を置き、ハローワークやキャリアコンサルタントなど関係機関も連携して、在校生や卒業生の様々な進路相談に応じるようなセンター的な組織を設置している先進事例もあるようなので研究してはどうか。

IV 学校規模や教育施設のあり方

新設校の学級規模についてですが、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の授業の実情を踏まえた場合、教職員が生徒たちの学習保障をしっかりと行うための環境としては、20人学級を標準とすることが理想的と考えられます

一方で周囲の仲間を意識できる環境も同時に必要となり、定時制高校の場合、多くの生徒にとって最後の学校生活の場となることが多い実情を踏まえると、体育祭・文化祭、球技大会の学校行事や部活動など、集団生活の素晴らしさを学べる学校規模の確保と環境づくりを重視していくことも大切な視点となります。

そのため、新設校でも充実した教育活動を展開するためには、一定数の集団を確保する必要がある、募集定員については、学校現場の意見や関係機関と協議のうえ、検討していく必要があります。

あわせて、両校のこれまでの取組を踏まえ、空間的にゆとりある教室の中で落ちついて授業を受けることができる少人数講座が、不登校を経験した生徒や発達障害等の生徒にとっても大変有効であることは前述のとおりであり、そうした教育環境を実現していくことを目指していきたいと考えています。

また新設校に併設する「引きこもり傾向」にある生徒たちを対象とした、従来の公立高校にはない新しいタイプの通信制のあり方やその規模についても引き続き十分な検討が必要な状況にあります。

こうした方針の下、新設校は生徒たちの教育活動を十分に保障するためにも、時間的・空間的に必要な時に校舎や施設を自由に使用できる環境が用意される単独校であることを前提に、少人数教育に対応するゆとりある普通教室、充実した学校生活を送ることができる運動場、体育館や校内交流スペースをはじめ、きめ細かい相談に応じることができる複数のカウンセリングルームの確保、資格取得の学習のために必要となる実習室、さらには生徒と教員のオンデマンドシステムを前提としたICT環境の整備などが求められるなど、従来の全日制高校とは異なる視点から教育施設の整備が必要となってきます。

こうした意味でも、新設校の教育理念や教育活動のあり方を生徒や保護者、中学校現場にしっかりと発信して市民の皆様に新設校の必要性を十分に理解いただくとともに、両校及び教育委員会が一体となって、全国の先進校等の教育環境や施設設備を積極的に検討するなど、新設校の教育内容、施設設備の一層の具体化を図ることが引き続き求められます。

V むすびに

本プロジェクトでは全5回の議論と視察に加え、3回にわたって、発達障害、子ども若者支援、定時制教育など各専門分野の有識者や中学校代表者からいただいた多様な意見と、市民意見募集で市民の皆様からいただいた多くの御意見を基に、この「まとめ」を作成しました。

この「まとめ」は継続的な検討を要する部分を残しているとは言え、新設校の教育構想の骨格に相当するものであり、今後この「まとめ」を指針として、学校現場と教育委員会が一体となってさらなる具体化を図っていくこととなります。

とりわけ市民意見募集では、新設校のあり方について、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制がこれまで培ってきた教育活動や機能を結集し、更なる充実を早期に図ることが求められているとともに、生徒数の減少傾向や財政負担の観点など、両校の再編・統合についても多数の御意見をいただいております。これらを踏まえて今後は市立定時制高校全体のあり方について、検討を進めることが重要です。

新設校については、多様な学びの動機や学習歴を有する「学び直し」を求める生徒たちのニーズに応えると同時に、社会的自立を促し、進路希望の実現に資するものでなければならぬと考えており、新設校で学ぶ生徒たちが「この学校で学べて本当によかった」、「この学校があって本当によかった」と実感できる新設校を実現できるよう、引き続きその構想づくりに全力を注いでまいります。

(資料目次)

参考資料 1	… 「新しい定時制高校創設プロジェクト」設置要綱
参考資料 2	… 同 有識者名簿
参考資料 3	… 同 委員名簿
参考資料 4	… 同 議論の経過
参考資料 5	… 同 第 1 回有識者会議 会議概要
参考資料 6	… 同 第 2 回有識者会議 会議概要
参考資料 7	… 同 第 3 回有識者会議 会議概要
参考資料 8	… 京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針
参考資料 9	… 西京定時制と伏見工業夜間定時制の比較
参考資料 10	… 「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ(案)に対する市民意見募集の結果について

「新しい定時制高校創設プロジェクト」設置要綱

(趣旨及び設置)

第1条 「京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針（平成26年7月策定）（以下、基本方針という。）」に基づき、新しい定時制単独高校（以下、新校という。）の創設に向けた研究・協議を行うため、「新しい定時制高校創設プロジェクト（以下、プロジェクトという。）」を設置する。

(組織)

第2条 プロジェクトは、プロジェクト委員（以下、委員という。）15名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が任命または委嘱する。

- (1) 京都市立伏見工業高等学校及び西京高等学校の学校長、定時制副校長、教員
- (2) 京都市教育委員会事務局指導部学校指導課（以下、学校指導課という。）の職員
- (3) その他教育長が必要と認める者

(委員)

第3条 委員の役割は、次のとおりとする。

- (1) 基本方針に基づく、新校に関する調査、研究または協議
- (2) その他学校指導課長が必要と認める事項

2 委員の任期は、委嘱の日からプロジェクトの終了までとする。

(会議)

第4条 委員による会議は（以下、会議という。）、学校指導課長が招集し、学校指導課の職員が進行する。

2 会議は、原則公開しない。ただし、第5条による新校の教育内容や施設設備に関する各分野の有識者や関係者（以下、有識者等という。）を招く際に、学校指導課長が必要と認める場合は、これを公開することができる。

3 会議の傍聴に関し必要な事項は、学校指導課長が別に定める。

(関係者の出席)

第5条 会議には、第2条で定める委員のほか、有識者等を招き、意見等を求めることができる。

(事務局)

第6条 プロジェクトの事務局は、学校指導課に置く。

(補足)

第7条 この要綱に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は、学校指導課長が別に定める。

附則

この要綱は平成26年10月30日から施行する。

「新しい定時制高校創設プロジェクト」有識者名簿

氏 名	職 名
竹田 契一	大阪教育大学名誉教授 大阪医科大学 LD センター顧問
宇都宮 誠	学校法人生野学園 理事長 生野学園中学・高等学校 学園長
水野 篤夫	公益財団法人京都市ユースサービス 協会常務理事・事業部長
伊藤 一雄	高野山大学名誉教授 関西福祉科学大学名誉教授
前田 敏也	市立中学校長会進路部会長 市立洛南中学校長

(敬称略, 順不同)

「新しい定時制高校創設プロジェクト」委員名簿

氏 名	役 職 等
西田 秀行	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制学校長
村上 英明	京都市立西京高等学校定時制学校長
田中 克典	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制副校長
鳥羽 恵美子	京都市立西京高等学校定時制副校長
辻浦 厚	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制教諭
山本 正廣	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制教諭
中塚 洋	京都市立西京高等学校定時制教諭
佐倉 隆児	京都市立西京高等学校定時制教諭
畑 一	京都市教育委員会指導部学校指導課担当課長
吉武 謙一	京都市教育委員会指導部学校指導課担当係長
谷口 衛	京都市教育委員会指導部学校指導課指導主事
西村 浩治	京都市教育委員会指導部学校指導課指導主事

(敬称略, 順不同)

「新しい定時制高校創設プロジェクト」議論の経過

第 1 回 会 議	平成 2 6 年 1 0 月 3 0 日
第 2 回 会 議	1 1 月 2 5 日
先 進 校 視 察 (神奈川県・東京都)	1 2 月 1 5 ・ 1 6 日
第 1 回有識者会議 (第 3 回 会 議)	1 2 月 1 9 日
第 4 回 会 議	平成 2 7 年 1 月 2 2 日
第 5 回 会 議	2 月 2 日
第 2 回有識者会議 (第 6 回 会 議)	2 月 2 3 日
第 7 回 会 議	6 月 2 日
第 3 回有識者会議 (第 8 回 会 議)	6 月 1 5 日

「新しい定時制高校創設プロジェクト」第1回有識者会議 会議概要

- 1 日 時 平成26年12月19日 金曜日
開会 10時00分 閉会 11時30分
- 2 場 所 京都市総合教育センター 第2研修室
- 3 会議メンバー (有識者) 竹田契一氏, 伊藤一雄氏, 水野篤夫氏, 前田敏也氏
(冒頭挨拶) 清水教育委員会指導部担当部長
(プロジェクト委員) 西田委員, 村上委員, 田中委員, 鳥羽委員, 辻浦委員, 山本委員, 中塚委員, 東原委員, 畑委員, 酒崎委員, 谷口委員
- 4 傍聴者 6人
- 5 会議の概要
 - (1) 冒頭挨拶 (教育委員会 清水指導部担当部長)
 - (2) 有識者紹介 (教育委員会)
 - (3) 「京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針」に関する説明 (教育委員会)
配布資料「京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針」により説明
 - (4) 「京都市立定時制高校 (伏見工業高校・西京高校)」に関する説明 (両校副校長)
配布資料「市立夜間定時制高校の概要」「西京定時制と伏見工業夜間定時制の比較」
及び両校の学校案内により説明
 - (5) 「新しい定時制高校創設プロジェクト」に関する事務局説明・協議
 - ア 説明 (教育委員会)
配布資料「第2回 新しい定時制高校創設プロジェクトでの主な意見 (概要)」により説明
 - イ 主な意見 (○は有識者, ●はプロジェクト委員)
 - 定時制教育は, 戦後から高度経済成長期を迎えるまで, 中学校卒業後に働きながら夜間定時制高校に学ぶ生徒がほとんどであったが, 現在, 高校進学率がおおよそ98%となる中, 定時制高校は学業不振の生徒のみならず, 不登校経験や発達障害など生徒の学びの場となるなど状況は変化してきており, 今後も多様な生徒を受け入れることが必要となっている。同時に, 生徒が

自分の学校に誇りを持てるような学校づくりが何より大切である。

- 来年度に京都府が開校する定時制の清明高校は、現時点での中学3年生の進路希望調査によると、定員を大きく上回る希望があったが、現在、定時制高校に進学している生徒以外の生徒層が多く希望していると聞いており、本来対象とすべき不登校や学業不振などの問題を抱える生徒が入学できないのではないかと危惧している。
- 今回、創設する定時制高校は、同じ京都市立である中学校との連携の強化が可能であり、生徒のニーズにあった学校づくりを進めてほしい。例えば、不登校の生徒を対象として洛風や洛友中学校との接続も検討すべきである。また、総合支援学校では事前の教育相談や体験入学等による適切な就学指導を行っており、入学後のミスマッチを防ぐため、一回の選抜試験だけによらない柔軟な入試方法を是非考えて欲しい。

- 様々な問題や悩みを抱える生徒のためにも、定時制教育に光を当てていくことは、とても大切である。そのためにも新しい学校では、どのような生徒を求めるかを明確にすることが重要である。

また、現在の両校の中途退学の状況と理由と、現在、そうした生徒たちも入学している広域通信制高校の現状を教えてほしい。

- 伏見工業高校では、一学年の定員が160名だった昔は半数が中退していた時代もあったが、定員30名の現在では5～7割近くの生徒が卒業しており、中退の理由としては、学業不振の面よりも、不登校による欠席超過が最も多い。
- 西京高校は、2年進級時の中退が最も多い。その進級率は6～7割程度であり、進級できなかった生徒のうち半数は自主退学している。その主な理由は、生活習慣のリズムが作れずに学校に来なくなった、またアルバイトに専念するなど進路変更によるものである。
- 市立高校全体の年間の中退率は、定時制で約10%、全日制で約1%となっており定時制は高く、全体的な理由としては学校生活への不適応やアルバイトや広域通信制高校などの進路変更が多い。
- 本市に所在する広域通信制高校については、市内中心部のサテライト校も含めると、10校を超える。本市では、約1万500人の中学卒業生のうち、600名弱が定時制・通信制（公私問わず）に進学し、うち、300名強が広域通信制である。

- 京都市は子どもパトナ、洛風・洛友中学校や総合支援教育など全国に先駆けて様々な取組を行っている中、基本方針の内容もしっかり定まっている新校にも大いに期待している。

不登校の生徒の半数は発達障害（学習障害、不注意・多動性、自閉症など）ではないかと言われ、残りの半数は学業不振などによるものと考えられている。

一方、昔、共同研究を行っていた宇治少年院の入所者は、LD等の発達障害よりも、大半が小学校4年生レベルまたはそれにも満たない「誤学習・不足学習・未学習」による学力不足の子どもが大半であった。

このような多様な生徒の学びの場が必要とされている中、高校だからと言って、文科省の高

校学習指導要領のみに縛られることなく、学び直しができるしっかりした学習支援を行っていくため、特区や研究指定も活用し、生徒のレベルに合わせた授業を展開していく必要があると考えている。勉強がわかると生徒や先生もどんどん良い方向に変わっていくはずである。

生徒の多様化は避けられず、課題も山積しているが、まずは生徒の学習保障が絶対不可欠であり、そのような学校づくりを進めてほしいと願っている。

(6) 閉会挨拶（教育委員会 畑学校指導課担当課長）

「新しい定時制高校創設プロジェクト」第2回有識者会議 会議概要

- 1 日 時 平成27年2月23日 月曜日
開会 10時00分 閉会 11時30分
- 2 場 所 京都市総合教育センター 第2研修室
- 3 会議メンバー (有識者) 竹田契一氏, 宇都宮誠氏, 伊藤一雄氏, 水野篤夫氏, 村岡徹氏
(冒頭挨拶) 清水教育委員会指導部担当部長
(プロジェクト委員) 西田委員, 村上委員, 田中委員, 鳥羽委員, 辻浦委員, 山本委員, 中塚委員, 東原委員, 畑委員, 酒崎委員, 谷口委員
- 4 傍聴者 9人
- 5 会議の概要
 - (1) 冒頭挨拶 (教育委員会 清水指導部担当部長)
 - (2) 有識者紹介 (教育委員会)
 - (3) 「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ (案) に関する事務局説明・協議
 - ア 説明 (教育委員会)
配布資料「「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ (案) (平成27年2月現在)」 「市立夜間定時制高校の概要」により説明
 - イ 主な意見 (○は有識者, ●はプロジェクト委員)
 - 基本的には学習指導要領に沿ってカリキュラム編成をしていくべきだが, 小中学校で国語・数学などの普通教科につまづいてきた生徒の学習意欲を高めるためには, 高校は中学校と異なる勉強を実感させることも大事である。その意味で, 職業系の科目も取り入れることも有効であると考え。
 - また, 普通科よりも職業学科を卒業した生徒のほうが, 正社員の離職率は低く, 職業教育を通じて, 社会人として生きる力が身に付くことも多いと感じている。
 - これらも踏まえ, 学力差もある多様な生徒が入学する中で, 学び直しなど柔軟なカリキュラムにしてほしい。
 - 学校だけで全て抱えるのではなく, 外部の様々な機関と連携しながら, 取り組んでいくべきである。学校以外の実践に学ぶことは, 教員のスキルアップにも繋がると考えている。
 - これまで, 色んな場面でつまづいてきた若者の支援を行ってきたが, 圧倒的に社会経験が少

ない子が多い。アルバイトが社会経験に繋がらないケースも多いと聞くので、学校生活の中で、外との繋がりを持つ機会を増やすようにしてほしい。

- 「まとめ（案）」にも示しているとおり、職業教育の重要性は十分に認識しており、外部の力も積極的に活用しながら、キャリア教育も充実していきたい。
- 伏見工業では、卒業後の就労に繋がるアルバイトを紹介できるよう企業開拓に努めているところである。企業も中学校卒業者の雇用は難しいが、アルバイトなら受け入れてもらえる所も一定ある。
- 最近では、発達障害などの精神障害においても手帳が取得できる場合も増えてきており、企業も障害者の法定雇用率を上げる観点からも、そのような生徒は就職しやすくなってきている。しかし、法定雇用の場合は、賃金の上昇率が低いことが多いなど、デメリットも否めない。
- 西京の進路結果について、4～6割の就職・進学している生徒たちの以外の進路はいかがか。
- 進学のための資金を貯める、自立して社会生活を送るなどの目標に向け、アルバイトを継続している生徒が多い。
- 今春開校の府立清明高校（定員120名）は、施設設備が新しいこともあり、人気が出てきているが、「学び直し」など本来の学校が求めているコンセプトを生徒がどれだけ理解して受験しているのか、中学校現場からは疑問の声が上がっている。新校では、現在の入試では学ぶ意欲など数値では計れない部分が多いことも十分考慮し、学び直したい意欲を持っている生徒に対して、進路選択ができるような制度を検討してもらいたい。
また、教育内容や学校規模についても、しっかり中学校現場への早期の情報提供に努めてほしい。
- 入試制度の検討については、府との協議が必要だが、今後とも中学校現場との情報交換も積極的に行いながら、教育相談や体験入学を通じたマッチングのあり方など、一度だけの入試によるミスマッチを防ぐような仕組みを検討していきたいと考えている。
- 本市の総合支援学校の職業学科においても、入学前に7、8回のオープンスクールを実施し、その中で保護者・生徒と面談を繰り返しながら、就学に繋げており、そのような取組も参考にしていきたい。
- 京都市は洛風・洛友中学校、総合支援学校などこれまでから先進的に取組んでおり、今回の定時制単独校も発達障害のある生徒たちにスポットを当てたことは、大変画期的なことである。診断が出ていなくても、様々な困りを抱えた子どもはたくさんいる。そのような生徒に対して、一人一人のつまづきの要因や発達のかたよりを把握して、それぞれの生徒に応じた支援を行いながら、「基礎学力の向上」「ソーシャルスキル（社会性）」「コミュニケーション力」をしっかり身に付け、自立して社会に送り出せる学校として、全国に先駆け、どんどん新しい研究にチャレンジしてほしい。例えば、小学校段階の学力しかない子に高校水準の授業をしても到底理解できない。こうした辺りにも柔軟な対応が出来る様にしてほしい。
そのためにも、発達障害などの知識・理解のある教員の配置は不可欠である。

● 現在、伏見工業では、国の研究指定を受け、特別支援教育の専門教員を今年度より配置しており、「個別の指導計画」をはじめ、様々なアドバイスをいただきながら取組の充実を図っている。今後、西京にもそれらの取組を広げていきたいと考えている。

○ 生野学園（全寮制の不登校支援の中学・高校）が開校して26年間、様々な不登校の生徒と付き合ってきたが、色んな悩みを抱える両親や子どもたちの思いに応えようと、また、ひきこもり気味の生徒が少しでも立ち直ることができるよう努めてきた。また、本校では入学前には心理テストや、両親の面談も丁寧に行ってきた。

その中で、学校の一番大切な役割は、一人で家にいた子どもが、6年間の寮生活の中で、友達やクラスメイトと様々なことを共有し、他者と自分の違いに気づきながら、自分の存在を認めてもらえ、確認できる場にしていくことであると確信している。

新校では、これらの役割を果たすことができるような要素を多く取り入れて、将来、自立していける生徒を育てることができる学校づくりを行ってほしい。

(6) 閉会挨拶（教育委員会 畑学校指導課担当課長）

「新しい定時制高校創設プロジェクト」第3回有識者会議 会議概要

- 1 日 時 平成27年6月15日 月曜日
開会 10時00分 閉会 11時30分
- 2 場 所 京都市総合教育センター 第2研修室
- 3 会議メンバー (有識者) 竹田契一氏, 宇都宮誠氏, 伊藤一雄氏, 水野篤夫氏, 前田敏也氏
(冒頭挨拶) 大黒教育委員会指導部担当部長
(プロジェクト委員) 西田委員, 村上委員, 田中委員, 鳥羽委員, 辻浦委員,
山本委員, 中塚委員, 佐倉委員, 畑委員, 吉武委員, 谷口委員, 西村委員
- 4 傍聴者 7人
- 5 会議の概要
 - (1) 冒頭挨拶 (教育委員会 大黒指導部担当部長)
 - (2) 有識者紹介 (教育委員会)
 - (3) 市民募集結果及び「まとめ(案)」に関する事務局説明・協議
 - ア 説明 (教育委員会)
配布資料「資料2」「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ(案)に対する市民意見募集の結果について」「資料4」市民意見募集結果を反映した「まとめ(案)」本冊」により説明
 - イ 主な意見 (○は有識者, ●はプロジェクト委員)
 - 「まとめ(案)」の趣旨に改めて賛同する。専用校舎を備えた定時制単独高校の創設は、定時制教育に関わる者が長年希望していたことである。
 - キャリア教育に関しては、中教審の答申(平成23年1月31日)にあるように、小学校から大学の各段階において、社会への円滑な移行を行い、社会人として自立していくために必要な能力や態度を育成することが目的であるが、そうした能力を育成するには、職業教育の充実が非常に重要だと考える。新設校においても職業教育をカリキュラムに組み入れ、生徒の社会的自立を支援していただきたい。また、そういったカリキュラムに対応できる施設整備も必要である。
 - 今の学校では、様々な課題を抱える生徒が多数いる。新設校では、若手も含めた幅広い年齢層の教員を配置し、そうした生徒に対応いただきたい。バランスのとれた教員体制を作ること
でカリキュラムが初めて活きる。

- 新設校では、総合支援学校との交流を行い、特別支援教育を専門分野とする教員を配置することが必要であり、他校種との人事交流も積極的に行っていただきたい。
- 中学校現場としては、多様な背景を持つ生徒に対する学習保障を行う「学びの場の確保」という役割を担っていただくことを切実に要望する。一生懸命、勉学に取り組もうとする生徒を救っていただきたい。今春開校した清明高校には、本市立中学校からも多数の不合格者がいるが、その進路先については、通信制に進学した生徒の割合が多いと聞いている。こうした状況の中、新設校で通信制の併設について検討いただいていることは生徒の進路保障を行ううえで大変有意義なこと。通信制から定時制、その逆も含めた転科を可能とするなど、柔軟な対応を検討いただき、多様なニーズに対応できる学校を早急に創設いただきたい。
- 「まとめ（案）」にある「Ⅲ 新設校の基本的な枠組み」内の「(6)外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方」の内容について、アルバイトをすることが社会と接続されるうえで必要であるのは重々理解しているが、生徒によって目的が様々であることや、また、課題を抱える生徒が面接でつまずき、アルバイト先が見つからないケースもあると聞いている。

学校が企業と生徒の間を仲介する形でアルバイト先を紹介するなど、外部連携をより一層強化する取組を検討してはどうか。加えて、キャリア教育に対してより積極的に取り組む姿勢を示す意味でも、学校が企業に生徒受入を働きかけ、卒業後の正規採用につなげる「インターン」や「ボランティア活動」などの文言を「まとめ（案）」に追加してはどうか。生徒に様々な経験を積ませることを学校が推奨することで、多様なニーズを持つ生徒に対応いただきたい。
- 外部との連携という点においては、「多様化した生徒に対応することを考えると、学校現場だけではなく、学校がこれまで培ってきた実践力と外部機関の力を連携させ、共に生徒一人一人に合わせた教育活動を展開する」といった趣旨を強調してほしい。
- 「まとめ（案）」の内容を踏まえ、素晴らしい新設校を創設されることを期待する。
- 「引きこもり傾向」にある生徒の多くは、人と関わるのが極端に少ないまま成長していく傾向にある。新設校では、そうした生徒が「人と関わることの重要性」を認識できるような教育活動を展開いただきたい。また、「引きこもり傾向」にある生徒は、選考の段階で本人の意志をしっかり把握するとともに、保護者の理解だけでなく共に学ぶ姿勢が不可欠である。
- 「まとめ（案）」に記載されているような支援を行う学校では、一番大変になるのは教員である。現場の教員の意見をしっかりと反映し、「新設校を自分たちが作っていく」と自負できるように、今後とも現場と検討を重ねていただきたい。
- 市民意見募集で寄せられているような、「熱意と意欲を持った素晴らしい教職員を配置し、未来ある子どもたちが社会に羽ばたくことのできる学校」が実現できれば理想的である。新設校が「まとめ（案）」の内容を実現することができれば、日本の定時制教育の新たなモデルになる。実現させるためにも、一番大切なのは、やはり人材である。今後、他校種との人事交流も含めて、新設校の中心となる「熱意溢れる人材」を配置し、情熱を持って教育実践に取り組んでいただきたい。

- 「まとめ（案）」には、「学び直し」の文言が多数見られるが、個々の生徒に応じてきめ細かい指導を実践できる教員が多いほど、一人一人の子どもの心に寄り添った学習保障ができる学校となる。当たり前のことではあるが、そうした学習保障をしっかりと行うことが、卒業後の就労にも繋がり、真の「学び直し」に結びつくと考える。そういった学校であってほしい。
- 「学び直し」を求める生徒には、保護者が生活指導を学校に丸投げしているため、基本的なソーシャルスキルが不足していたり、対人関係に苦手意識を持っている生徒が多く、本人が悩みを抱えていることに、周りの者が理解していない傾向にある。特別支援教育を専門分野とする人材を活用して、そうした生徒がどの段階でつまづくのかを把握することが必要である。
- 課題を抱える生徒に対しては、前年度の担当者から把握している情報を引き継ぎ、指導に活かすことが大切。特に発達障害等を抱え、認知に偏りを持った生徒については、個別のノウハウの積み重ねが重要であり、自らの指導方法を貫くだけでなく、柔軟さを持って丁寧できめ細かい指導ができる教員を配置してほしい。
- 社会に出る際に基本的な素養を身に付けさせるためにも、「まとめ（案）」にある「将来を見据えた生活習慣の確立」に真剣に取り組むとともに、そうした指導を行うことのできる教員が必要と考える。

- 定時制には倦怠学傾向にある生徒が志願する場合もあるが、そうした生徒に対してもきめ細かい対応をとることで、将来、社会で自立できる人材となる。定時制に進学している生徒に対してそうした指導を徹底するためには、少人数教育を展開することが欠かせない条件である。

- 学校で働く教員の思いを一つにすることが何よりも重要。現在も様々な課題を抱える生徒と日々接しているが、生徒と人間関係を築くことが困難な場合もある。特に、定時制では、個々の生徒の状況に応じた指導が不可欠であり、心情や背景を理解しようとする姿勢を持つことが非常に大切。是非とも新設校では熱意ある教員に集まっていただき、教育活動を展開していきたいが、そうした教員は各校の中心であるケースも多く、若手の育成が今後の課題と考える。

- 今年度、特別支援教育のアドバイザーを2名配置いただき、様々な観点から指導法に関する助言をいただいている。新設校でもこうした特別支援教育を専門とする教員は必要であり、生徒の心に寄り添うことのできる学校体制の構築目指していきたい。

- 新設校の開校当初は志願者が多くなると思うが、従来と同じ選抜を行っていたのでは、本来的に定時制教育を求める生徒が入学できない可能性がある。現行制度の下で制限があるかと思うが、新しい選抜方法を検討いただく必要があるのではないか。
- 単に成績順で入学者を決定するのではなく、大学のAO入試のような選考方法や海外の大学にあるように社会性が身に付いていない生徒を優先的に入学させるような、新設校の趣旨に合致した多様な選抜方法を検討いただきたい。

- 本来的に定時制教育を求める生徒が入学できないことは、高校側としても不本意であると考えている。そうしたことの無いよう、選抜方法についても、今後検討していく。
- 市立総合支援学校では、個別相談や見学・体験などを複数回実施するなど、市立中学校とも連携するシステムが構築されている。新設校の新たな選抜制度の検討についても、市立中との連携を図り生徒情報や個別の指導計画を共有できるような方法を検討していきたい。
- 人事交流については、新設校だけではなく、全体のバランスも考慮することが必要となるが、特に新設校においては、教員の年齢構成を考慮するだけでなく、特別支援教育を専門分野とする教員を配置していくことは必要であると考えている。

(4) 閉会挨拶（教育委員会 畑学校指導課担当課長）

京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針

京都市立定時制単独高校（以下、定時制単独校）の創設に向け、下記の基本方針の下、教育内容や施設設備等の在り方について検討を進める。

記

1 夜間定時制高校の現状と定時制単独校の創設に向けた方向性

全国的に全日制高校への進学者が増加する中で、夜間定時制高校は勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験や特別な支援が必要な生徒をはじめ、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒たちが増加してきている。

また、本市立夜間定時制高校においても、このような状況は同様であり、これまでから、少人数教育はもとより、通常の4年ではなく全日制と同様に3年間での卒業を可能とした3修制の導入や、特別支援に関する専門的知識を有する教員の配置といった様々な改革を進めている。

こうした中、さらに生徒たちの多様な状況やニーズにきめ細かく応えられるよう、学び直しや自立支援等の機能を充実させた新たな教育内容や学校体制及びそれらを実現する施設設備を備えた新設校の設置を目指す。

2 教育内容等に関する検討の観点

- (1) 不登校経験や、発達障害等の特別な支援を必要とする又はその可能性のある生徒の学力保障と進路保障に向けた指導の在り方
- (2) 将来を見据えた生活習慣の確立、資格取得の在り方、進路指導、キャリア教育の充実に向けた外部の専門機関との連携の在り方
- (3) (1)及び(2)を円滑に実施するための教育課程、単位取得、授業時間帯や修学年限等の在り方
- (4) (1)及び(2)を円滑に実施するための人員配置、学校体制の在り方

3 整備地・施設設備等

洛陽工業・伏見工業高校の再編・統合により活用可能となる伏見工業高校の敷地の一部を定時制単独校の整備地とし、施設設備においては、既存の呉竹館（平成21年3月竣工）の活用も含めた整備の在り方を検討する。

なお、伏見工業高校夜間定時制は、平成28年4月開校予定の新しい工業高校へは移転せず、現在地において教育活動を継続することとする。

4 検討の進め方

- (1) 本市立夜間定時制高校の教職員及び教育委員会の職員で構成するプロジェクトを設置し、検討を進める。
- (2) 検討の過程においては、必要に応じて学識経験者や中学校現場等の参画を得る。

西京定時制と伏見工業夜間定時制の比較 (H26. 11 現在)

西京高校・夜間定時制

普通科 (学年制)・定員 50 名

1 年	4 学級 (13~14 人)	54 名
2 年	3 学級 (11~12 人)	34 名
3 年	3 学級 (10~14 人)	34 名
4 年	2 学級 (12~14 人)	26 名
		計 148 名

01 時限 15 : 30~
 02 時限 16 : 20~
 給食 17 : 00~
 1 時限 17 : 30~
 2 時限 18 : 20~
 給食 19 : 05~
 3 時限 19 : 30~ 4 時限 20 : 20~

伏見工業・夜間定時制

工業技術科 (単位制)・定員 30 名

1 年	2 学級	33 名	(2 人担任制)
2 年	1 学級	25 名	(2 人担任制)
3 年	1 学級	11 名	(2 人担任制)
4 年	1 学級	20 名	(2 人担任制)
		計	89 名

0 時限 16 : 30~
 1 時限 17 : 30~
 2 時限 18 : 20~
 給食 19 : 05~
 3 時限 19 : 30~
 4 時限 20 : 20~

少人数教育

午後から始まる学校 (3 修制)

生活習慣の確立

アルバイトの推奨 (社会性の向上・継続就職)

Bコース/情報・商業系の資格

資格取得の促進

土木・建築・電気・機械系の資格

長期欠席者特別選抜の実施

不登校経験者への配慮

特別支援教育の充実

文科省の研究指定・専門主事の配置

「新しい定時制高校創設プロジェクト」まとめ（案）に対する
市民意見募集（パブリックコメント）の結果について

1. 市民意見募集の概要

- (1) 募集期間 平成27年3月23日（月）～4月24日（金）
- (2) 募集方法 各区役所・支所，市役所庁舎案内所，市図書館に応募用紙を配布，ホームページにおける掲載
- (3) 応募方法 郵送，FAX，メール

2. 応募結果

応募者数 52名

意見数 54件（メール 27件，郵送・FAX・持参 27件）

（年齢別）

年齢	応募者数（名）	
20歳代未満		0%
20歳代	1	2%
30歳代	5	10%
40歳代	9	17%
50歳代	19	37%
60歳代	1	2%
70歳代以上		0%
不明	17	33%
合計	52	100%

（性別）

性別	応募者数（名）	
男性	29	56%
女性	14	27%
不明	9	17%
合計	52	100%

（居住地別）

居住地	応募者数（名）	
京都市内	30	58%
京都市外	3	6%
不明	19	37%
合計	52	100%

3. 御意見の内訳

(1) まとめ（案）の項目別

意見区分	意見数（件）
定時制単独高校への期待	21
定時制に求められる役割について	20
学習保障・少人数教育・きめ細かい指導	11
時間帯のあり方	8
修業年限・単位認定	3
外部機関との連携	4
教育施設のあり方	3
伏見工業高校と西京高校の統合	6
その他	2
合計	78

※複数の「意見区分」に渡る御意見は重複して計上している

(2) 意見の内容別

肯定的な意見	50
否定的な意見	0
その他	4

4. 主な御意見（要旨）と御意見に対する本市の考え方

別紙のとおり。

1 定時制単独高校への期待（21件）

（別紙）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
定時制単独校の新設は大いに歓迎。 「まとめ（案）」に盛り込まれた要素を踏まえ、これまでにない魅力ある教育を提供する新しい定時制高校を成功させてほしい。	1	ICT環境を活用した学習支援など、これまでにない魅力的な教育活動を展開し、多様化する生徒の実態に即した学びの場を提供することを期待するとの御意見を参考に、生徒たちが「この学校で学べて本当に良かった」、「この学校があって本当に良かった」と実感できる新設校を出来るだけ早期に実現できるよう、引き続き検討を進めてまいります。 また、本「まとめ（案）」の作成に当たっては、定時制高校の管理職や教職員と教育委員会職員で構成するプロジェクトの議論や視察に加え、発達障害、子ども若者支援、定時制教育など専門分野の多くの有識者や中学校代表者からいただいた多様な御意見を参考にしております。 今後は新設校の骨格に相当する、この「まとめ（案）」を指針として、学校現場と教育委員会が一体となって教育構想のさらなる具体化を図っていくため、継続的な研究・検討を進めてまいります。
「まとめ（案）」については、これまで京都市立定時制高校で取り組まれてきた教育活動の上に立ち、開かれた議論による具体化を期待する。 但し、「新しい定時制単独校が西京定時制をなくすことを前提とされており、その是非についての考察」や、「府立を含めた市内定時制高校の現状と今後」、「定員規模」、「きめ細かな指導を実現できる教職員数や施設設備の確保」が明確にされておらず、今後の議論・検討が必要と考える。	1	
「まとめ（案）」の具体的な学習保障や指導計画が的確で分かりやすく、新設校に対する期待を持った。ICT環境を活用した学習支援の試みも期待するところが大きい。	1	
「まとめ（案）」の「Ⅲ 新設校の基本的な枠組み」は本当にそのとおりに思うものばかりである。	1	
多様化する生徒の実態に即した学校は、一番必要とされている。熱意と意欲を持った素晴らしい教職員を配置し、未来ある子どもたちが社会に羽ばたくことのできる学校の設定を期待する。	1	
様々な家庭環境の中で育つ多様な個性を持った生徒に応じて、学びの場を提供する新しい定時制高校に期待する。	7	
子どもの環境が変わる中、高校もそれに伴って新しい体制を作っていたらよいので、ぜひ実現していただきたい。	1	
是非とも、「まとめ（案）」にあるような新設校を、とくに市南部に設立し、市内全域の子どもたちがバランスよく通える体制を作っていただきたい。	1	
義務教育卒業後も夢と希望を持って、今回のような市立の新定時制に入学し、勉強できるチャンスが与えられることに大きな期待を持っている。	2	
新聞で府立清明高校を希望する生徒が多かったという記事を読んだ。定時制を希望する生徒が一人でも多く入学できるよう、早く創設してほしい。	1	
進学に優れた高校を創る一方、定時制高校にも目を向ける幅広さが京都市の教育の良いところと感じた。京都市ならではの新しい定時制高校に期待する。	2	
教育の多様化への対応として期待している。様々な生徒へのきめ細かな指導は大切であると日々、感じている。	1	
マイペースで勉強できる学校になることを期待する。	1	

2 定時制に求められる役割について（20件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
これからの定時制高校は、不登校経験者や支援の必要な生徒など、多様な社会的背景を持つ生徒に対する学びの場としての役割を担うべき。	5	これからの定時制高校は、不登校経験者や発達障害等による特別な支援を必要とする生徒など、多様な社会的背景を持った生徒に対する学びの場として、新しい役割を担うべきとの御意見を踏まえ、新設校のあり方については、多様な学びの動機や学習歴を有する「学び直し」を求める生徒たちのニーズに応えると同時に、社会的自立を促し、進路希望の実現に資するものでなければならぬと考えております。 このため、これまで伏見工業高校夜間定時制及び西京高校定時制が保障してきたように、生徒たちの「学びたい」という意欲や気持ちを大切に、その思いに対してしっかりと学習と生活支援を行っていく役割が強く求められていると認識しており、教育活動の一層の具体化に向け、引き続き検討を進めてまいります。
発達障害を抱える生徒に対しては、それぞれに異なる障害の特徴や程度を把握した上で、自己肯定感や自信を持たせ、自立を促すよう働きかけることが大切である。	1	
発達障害等による特別な支援を必要とする生徒の定義が、厳しい条件の生徒を対象としているように感じた。	1	
多様化した社会の中で、定時制が新しい役割を担っていくべき。様々な子どもたちの教育保障をすることは、大切なこと。効果的な支援を求める。	1	
多様な課題を持つ生徒の学習意欲に応えることのできる柔軟な体制作りを。	1	

2 定時制に求められる役割について（続き）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
戦後すぐに生まれ、非常に貧しく混乱した時代の中で十分な教育を受ける機会が与えられなかったり、高校を卒業できなかった60～70歳代の方にも門戸を広げていただきたい。	1	現行の入学選抜制度においても、御意見にあるような状況の方々については志願者資格を有しておられ、新設校においても同様に対応してまいります。
通信制の設置を検討いただきたい。	3	通信制は、学習意欲がありながらも高校に登校できない生徒に対する学習保障を行ううえで有効であると考えております。ICT環境を活用した学習支援の実践など、いただいた御意見を参考に、従来の公立高校にはない新しいタイプの通信制の設置について、対象となる通学圏も含めた検討を進めてまいります。
通信制の検討について、ICT環境等を活用し、「引きこもり」状態の生徒に対する支援ができれば公立高校として画期的な取組。スクーリングの実施方法等、課題もあるが対象を府下全域とするような検討もしてほしい。	1	
通信制の検討について、府立朱雀高校通信制との関係について明らかにしてほしい。	1	
新たな入試システムを検討することに賛成。複数回の体験学習や相談会、面接を重ね、生徒の特性を把握するような入試システムが大切である。	2	学習意欲を持ちながらも、様々な理由で中学校への通学が難しかった生徒の入学が困難とならないよう、多様な視点・尺度での選抜方法を検討いただきたいとの御意見を参考に、生徒本人の意欲を高めるような新しい選考方法について、個別相談や見学・体験などを複数回実施されている総合支援学校職業学科の「オープンキャンパス」の実績や、中学校現場の意見も踏まえながら今後、検討を進めてまいります。
不登校や発達障害等の様々な課題や、経済的格差が学力や学歴の格差となってしまっている現実がある。そうした状況の中、学習意欲を持ちながらも、恵まれない立場にある生徒の入学が困難でないように、多様な視点・尺度での選抜方法について検討いただきたい。	2	
様々な理由で、中学校へ通うことが出来なかった生徒達を受け入れるため、学校の状況を生徒が理解し、学校が生徒の意欲を理解できるような、長期にわたる入試制度を検討してほしい。 また、通信制も併置するなど多様な学習体制をとっていただきたい。	1	

3 学習保障・少人数教育・きめ細かい指導（11件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
新しい定時制高校では15～20名の少人数クラスを設け、教職員やスクールカウンセラーの専門職員が個別相談に応じるなど、生徒1人1人と向き合ってほしい。	1	空間的にゆとりのある教室や施設で、生徒一人ひとりと向き合う、きめ細かい指導を行うことができる少人数教育を展開することは、不登校を経験した生徒や発達障害等を抱える生徒が安心して着実に学習を進めていくうえで、大変有効であると認識しております。 また、1学年あたりの募集定員につきましても、学校現場の意見なども踏まえながら検討を進めてまいります。
少人数学級で午前と夜間の2部とし、募集定員は120名までとするなど、家庭的な学校環境を確保してほしい。総合技術教育を学ぶ専攻科を設置してほしい。	1	
職員定数配置を充実させ、一人の生徒を教職員全体で包み込むような指導体制を継承すべき。そのために学年規模を80人以下とすべき。	1	
定時制には、子どもたちを真っすぐに受け入れ、本気で叱ることのできる素晴らしい先生がおられる。そうした熱意ある素晴らしい先生方のいる学校を作してほしい。	2	御意見にありますように、家庭の経済状況などの理由から、アルバイトをしながら学習を行う生徒たちに対する学びの場をしっかりと保障できるよう、検討を進めてまいります。
アルバイトを通して社会性を身に付けること、きめ細かな支援を得ることなど、定時制高校しかできないことがある。工業、商業などを融合した学習内容を提供する新しい定時制高校に期待する保護者や生徒は多い。	1	
京都の伝統工芸分野などの地元企業と連携を図り、卒業後の正式採用につなげるなど、家庭事情等で勤務せざるを得ない子どもに対応してほしい。	1	
経済的理由等で、アルバイトをせざるを得ない学生のため、夜間定時制を残してほしい。	2	工業・商業・情報等の専門性の高い柔軟なカリキュラムを編成し、魅力的な講座を設置することや資格取得に取り組むことは、生徒の学習意欲を高めるとともに自らの進路のあり方を考える機会となり、キャリア意識の向上と進路実現のために重要と捉えております。 こうした認識のもと、具体的な設置学科やカリキュラムについては中学現場の意見も踏まえ、検討を進めてまいります。
機械、建築系の仕事をしている勤労者のためにも、現在のような工業系の定時制があることを望む。	1	
新校では、工業・商業・情報等の専門性の高い柔軟なカリキュラムを編成し、魅力的な講座を設けてほしい。	1	

4 時間帯のあり方（8件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
午前・午後コース、夜間コースを設け、自らのペースでそれぞれのコースの単位を併修可能としてほしい。	3	午前・午後、夜間コースを設け、多様な科目の中から、自らのペースで学ぶことのできる柔軟な対応をとっていただきたいとの御意見を参考に、新設校につきましては、昼間に学びたいニーズに応えるとともに、引き続き夜間に学ぶニーズにも応えることを目指してまいります。
三部単位制及び通信制を併置しているような学校であればと思う。多様な科目から、自らのペースで学習できる単位制高校の需要は高いと考える。	1	
カリキュラムも、単位制、午後と夜間の2部制など柔軟な対応をとっていただきたい。	1	
定時制に進学している子どもでも、夜でないと通学できない子は少ないと聞いている。様々な事情を抱えた生徒に対応できる学校として、朝、昼も含めた学校を作り、のびのび学べる場を整備してほしい。	1	
ニーズは多様化しているだろうが、働きながら学ぶといった本来のスタンスを検討してほしい。 また、伏見工業の校舎を単独使用できるのならば、昼間定時制の復活も検討してほしい。	1	
アルバイトをせざるを得ない高校生のために、夜間定時制は残していただきたい。	1	

5 修学年限・単位認定（3件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
生徒の実態に合わせて、3年卒業と4年卒業を選べるものとし、学年制を基本としてほしい。	1	修学年限については、生徒の実態から3年制と4年制の併用も検討しており、今後とも研究を進めてまいります。
3年間で卒業可能な単位制高校であってほしい。	1	
学校独自の職業実習を設け、単位として認定するなど、実習的な内容を手厚くしてほしい。	1	教育課程の具体化を図る中で、御意見を参考にさせていただきます。

6 外部機関との連携（4件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
学び直しを必要とする生徒に社会性を身につけるためには、外部専門機関と密接に連携し、社会を多面的に捉える機会を設けることが大切。	1	生徒が主体的に学習できる指導体制の確保や外部機関との連携など、御意見を参考に検討を進めてまいります。
きめ細かな指導ができるよう、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの専門職員を十分に配置してほしい。	2	スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等の専門職員の配置についても関係機関の意見も踏まえながら、検討してまいります。
カウンセラーの常駐や中学校の復習を行うなど、学習環境を整えてほしい。	1	

7 教育施設のあり方（3件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
一人ひとりの生徒がいきいきと学校生活を送れるよう、広い敷地を活用し、充実した設備を是非設けてほしい。	3	生徒たちの学習保障をしっかり行うことのできる、充実した教育環境の実現を目指してまいります。

8 伏見工業高校と西京高校の統合（6件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>全日制と定時制の併置校は、施設使用のほかにも様々な問題があると考えます。生徒たちには自由な学校生活を送ってほしい。</p> <p>様々な課題を抱える子どもたちに学習の機会を提供する学校とすると同時に、既存の伏見工業と西京高校を統合し、定時制教育を集中させるのも良いのではないかと。</p>	1	<p>新設校では、これまで伏見工業高校夜間定時制及び西京高校定時制が取り組んできた教育活動や機能の更なる充実を図ることとしており、多様な観点からの御意見を参考に、市立定時制のあり方について検討を進めてまいります。</p>
<p>少子化が進む中で、定時制教育を必要とする児童数をきちんと見込む必要がある。少人数教育にも賛成だが、教育活動を実施するには一定数の集団であることが必要。この機会に定時制高校の統合も検討してはどうか。</p>	1	
<p>高校教育の学習保障が叫ばれる中、西京高校と伏見工業高校が持つそれぞれの強みや良さを合わせることで、定時制教育がさらに充実したものになるのではないかと。</p>	1	
<p>定時制単独校の設置に大賛成。全日制と校舎が一緒だとクラブ活動が十分にできず、体育祭や文化祭も夜にしかできない。西京と伏工と一緒に、昼も授業ができる新しい学校を作ってほしい。</p>	1	
<p>財政状況が厳しい中、市民理解を得るためにも伏見工業高校と西京高校を統合して新しい定時制高校を創設すべき。</p>	1	
<p>新しい定時制高校に期待するが、財政に余裕が無いと知った。定時制高校も工業高校のように統合して、限られたお金を集中させてはどうか。</p>	1	

9 その他（2件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>今回のような素晴らしい教育環境や内容を持つ学校が、1校で終わるのではなく、既存の学校も子どもたちが安心して自分の居場所を見つけ学んでいける場となるよう、充実してほしい。</p>	1	<p>「一人ひとりの子どもを徹底的に大切にする」という本市教育理念のもと、各市立高校においては魅力や特色ある高校づくりを推進しており、今後とも教育活動の一層の充実を図ってまいります。</p>
<p>伏見昼間定時制のデュアルシステムに関する総括的なまとめを明らかにしてほしい。夜間定時制の必要性を踏まえ、希望する全ての青年に高校教育を受ける機会の保障を図ってほしい。</p>	1	<p>伏見工業高校昼間定時制につきましては、平成24年4月の京都市立工業高校将来構想委員会の「最終まとめ」において、学科の設置主旨である「働くことを通じて学ぶ」という目的が乏しい生徒が多く入学している状況が報告されるとともに、中学校にもその設置趣旨が十分浸透せず、同校が求める生徒像との間に乖離が生じていたことから平成27年度入学者選抜より入学者の募集を停止いたしました。</p> <p>また、夜間定時制につきましては、この間、大幅な定員割れの状況が続いておりますが、厳しい社会情勢が続いていることも考慮し、京都府教育委員会とも協議のうえ、定時制希望者に対して十分対応できるよう定員の確保に努めております。</p>